

クニと邪馬台国

弥生時代は人と人の争いが本格化した時代でもある。勝利した側は敗北した側を吸収していき、この過程で「クニ（小国）」が登場した。中国の歴史書には、クニの長が支配力強化のために中国へ朝貢を試みたことが載る。やがて「クニ」同士の政治的な連合が生まれ、邪馬台国のような連合の中心となる強い「クニ」が登場した。

○争いとクニ

●農耕と争い

世界的に見て、農耕の開始と同時に、人・集落同士の争いは本格化する。
⇒弥生時代には、対人武器や防御目的の環濠集落・高地性集落が出現した。

◇争う理由：⁽¹⁾ _____



勝利した集落は、敗北した側を統合し、やがて大規模化した。

⇒首長（王）の統治する政治的集団「クニ（小国）」が日本列島の各地に生まれた。



図1 楽浪郡・帯方郡

●中国から見た日本列島の「クニ」

<紀元前1世紀の様子>

『⁽²⁾ _____』 _____ (著者：班固)

①百余の「クニ」が「倭国」に分立

②「倭国」の「倭人」が使者を⁽³⁾ _____ に派遣（朝貢目的）

◇当時、中国では日本列島を「倭国（倭）」、住む人々を「倭人」と呼称

◇朝貢…中国の皇帝に貢物をして、中国との上下関係を築くこと

◇(3) …中国「漢」の武帝が朝鮮半島に置いた郡（行政単位）

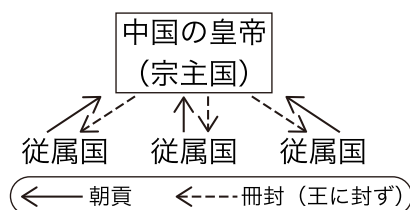


図2 朝貢と冊封

<1世紀中頃～2世紀の様子>

『⁽⁴⁾ _____』 _____ (著者：范曄)

①57年、倭の⁽⁵⁾ _____ 王が⁽⁶⁾ _____ から印綬（金印と紐）を授受

⇒金印は江戸時代に福岡県⁽⁷⁾ _____ で発見され、

印面に「⁽⁸⁾ _____（かんのわのなのこくおう）」と刻字

◇奴国王の使者は、後漢の都洛陽まで訪問

②107年、倭国王⁽⁹⁾ 帥升ら（小連合を組む「クニ」の王たち）が

安帝に⁽⁹⁾ _____ 160人を献上

◇(9) …奴隷のこと

③2世紀後半、小連合を組んでいた「クニ」同士で内乱継続



図3 金印



図4 漢委奴国王

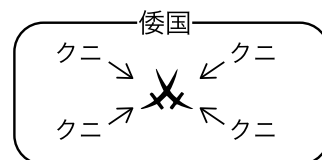


図5 倭国の内乱

○邪馬台国連合

●邪馬台国連合の登場

「⁽¹⁰⁾ _____」 _____ (著者：陳寿)

⇒2世紀後半の内乱の果てに、⁽¹¹⁾ _____ という「クニ」の

女王⁽¹²⁾ _____ を「クニ」同士が共立すると、争いが鎮まった。

⇒(11) を中心とする29の「クニ」の大連合が登場した。

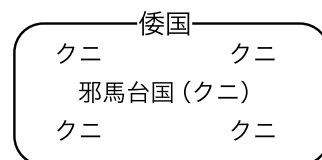


図6 邪馬台国連合

●邪馬台国連合の社会と外交

<社会>

2つの身分があり、上位の⁽¹³⁾ _____ と下位の⁽¹⁴⁾ _____ に分かれる。

<外交>

239年、卑弥呼は難升米ら使者を⁽¹⁵⁾ _____ を通じて魏の都洛陽に遣わした。

⇒卑弥呼は魏の皇帝から⁽¹⁶⁾ _____ の称号と銅鏡100枚を賜った。

◇卑弥呼は夫をもたず、弟の補佐をうけ、鬼道（呪術）で政治を執行

◇(15) …朝鮮半島の楽浪郡南部が分割され、新たに設置された郡（行政単位）

◇卑弥呼の賜った鏡を、古墳時代の遺物である三角縁神獣鏡と同一視する説あり



図7 三角縁神獣鏡

●歴史書からの消失

卑弥呼が亡くなり、次に男性の王が立っても連合はまとまらなかった。

⇒卑弥呼と同じ血筋の⁽¹⁷⁾ _____ （ _____ ）が女王になると、

ようやく連合はまとまりを取り戻した。

◇卑弥呼の晩年、邪馬台国は狗奴国と抗争



266年、⁽¹⁷⁾ _____ が晋の都洛陽に使者を遣わした。

⇒以降約150年間、中国の歴史書から倭国に関する記述が消えた。



図8 魏と洛陽

●卑弥呼を描く2つの絵画

Q. 同じ画家が、邪馬台国の所在地に基づき、卑弥呼の絵画を2種類描いた。なぜか？

A. ⁽¹⁸⁾ _____。

<題材>

⁽¹⁹⁾ _____

<題材の根拠>

- ・吉野ヶ里遺跡
- ・倭人伝に載る墓が北九州に分布
- ・倭人伝に載る品が九州で多く出土



<題材>

⁽²⁰⁾ _____

<題材の根拠>

- ・纏向遺跡
- ・三角縁神獣鏡が近畿で多く出土
- ・箸墓古墳
- （卑弥呼の墓！？）



●邪馬台国とヤマト政権

3世紀後半から、大和（奈良）を中心に、ヤマト政権という政治連合が存在した。

⇒近畿説・九州説のどちらでも、邪馬台国はヤマト政権に結びつくと思われる。

近畿説…邪馬台国連合は近畿～九州を支配、ヤマト政権に発展

邪馬台国連合

ヤマト政権

九州説…邪馬台国連合とは別に、近畿にヤマト政権が存在

⇒邪馬台国連合が吸収された or 東遷して吸収した。